総合的な学習の時間 学習指導案

指導者　白浜町立南白浜小学校　大浦 侑唄
協力者　防災コンサルタント　堀脇 泰治

1．日時　令和7年11月11日（火） 第5校時

2．学年　第4学年 6名（男子：4名、女子2名）

3．単元名　白浜みらいプロジェクト（全60時間）
・プロジェクトK（環境の視点：20時間）
・プロジェクトD（伝統文化・産業の視点：20時間）
・プロジェクトB（防災の視点：20時間）

4．単元の目標（プロジェクトB）

知識および技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力、人間性等
◎学校区の水害に対する防災・減災を探究していく過程において、地域の人々との関わりの中で、共に命を守るために必要な知識や技能を身に付け、防災・減災に関わる概念を形成できる。	◎災害（地震・津波・台風など）の特徴や危険性を理解し、自分や家族、地域を守る方法について考えることができる。 ◎災害から身を守るために、どんなことをしたらよいかを調べ、考えあい、学びを深めることができる。	・自分自身も含めた学校区に住まう人々の命を守るために、主体的に地域の人々と関わり、より安心・安全な地域となるよう工夫、改善をし、実践しようとする態度を養う。

5．単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
・これまで生活してきた学校区には、地震・津波などの災害の危険があることを知り、防災・減災について必要な事柄を理解している。	・災害時に自分や家族を守るための具体的な方法を考えている。 ・課題を解決するために、必要な資料を集めたり分類・整理したりして自分の考えを表現している。	・防災について主体的に学び、家庭や地域での備えに関心をもっている。

6．単元について
(1)　教材観
本単元では、「白浜みらいプロジェクト」と称し、10 才という節目である児童が成人する10年後の白浜の未来について想像し、その理想の実現に向けて、自分たちには何ができるのか、「環境」「伝統」「防災」それぞれの視点で年間を通して考える単元としている。（単元構想図を参照）
近年日本各地で起きている自然災害や、それに伴った被害の様子から、学校現場における防災教育の重要性が注目されている。特に平成23年3月に発生した東日本大震災を機に、マニュアルにとらわれた防災訓練や防災教育をするのではなく、児童一人ひとりが状況に応じて、自分の命は自分で守ることができる自助の意識、状況から自分のできることを考え行動できる共助の意識を育てるといった主体性を育む防災教育の充実が重要視されている。

社会科「自然災害から人々を守る活動」の単元では、学習指導要領の内容（3）を受け、災害発生時の「対処」と災害対策の「備え」をキーワードとして「地域の関係機関や人々は、自然災害に対し、様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される災害に対し、様々な備えをしていること」を追究させる。

また、過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などに着目して、災害から人々を守る活動を県庁や市役所の働きなどを中心に、自衛隊など国の機関の取り組みを捉え、日頃から必要な備えをするなど、自分たちでできることなどを考えたり選択・判断したりできるようにするとしている。

したがって、総合的な学習の時間（以下、プロジェクト B）では、地域特有の自然災害について取り上げ、町役場防災課の取り組みや、地域企業と地区との連携、地域避難所での備蓄等の対策、防災コンサルタントから学ぶ日頃の備えなど、「公助」「共助」「自助」の視点で防災・減災について学習していく。

（2）　児童観

○防災に対する関心の高さ⇒自分事へ

児童の個人情報のため省略

○課題に対する意欲の高さ⇒協働の力を育むきっかけに

児童の個人情報のため省略

7．本校の研究主題と関わって（教科横断的な視点に立った資質・能力の育成について）

○探究的な学びの実現に向けて

「パンダおらんくなるけど、これから白浜大丈夫かな。」という児童の日常的なつぶやきを皮切りに、本単元「白浜みらいプロジェクト」の学習がスタートした。白浜の観光資源の一つであったパンダの喪失から抱く、児童らの漠然とした将来への不安を逆手に、「10年後、白浜をどんな町にしたいか」意見を出し合い、それらを「環境」「伝統」「防災」の視点に腑分けし、学習単元（プロジェクト）を3つに分けた。それぞれの視点で、児童らの考える「理想の町」の実現に向けて、「わたしたちができることは何か」考えることをプロジェクトの最終ゴールとしつつ、そのヒントを他府県等の事例から学ぶことを動機づけとして、社会科や国語科などの既存の単元での学習へと進む流れとした。

○体験活動を通した地域との積極的な関わり

既存の単元で学習した他府県等の事例を踏まえ、自分たちが住んでいる和歌山県や白浜町での取り組みを知る活動を、総合的な学習の時間や特別活動、学級活動として取り扱うことで、学んだことを自分事として捉えられるようにした。また、実際に足を運んだり、本物に触れたりする活動の中で、児童らが五感を働かせて学び、体験することで、より主体的に学ぶ機会とした。

学んだことを広げていく活動では、アドベンチャーワールドからもらった堆肥を花づくりに使用して花をプレゼントしたり、自分で漉いた和紙に自分で握った墨を書いてお礼のお手紙を渡したり、地域の清掃活動や缶整理に参加したりするなど、学んだことを地域に還元できるように、児童らと話し合う中で学習活動の方向性を定めていきたい。

≪ESD との関連≫

・本学習で働かせる ESD の視点（見方・考え方）

	プロジェクトＫ（環境）	プロジェクトＤ（伝統）	プロジェクトＢ（防災）
構成概念Ⅰ 多様性		不易流行を生かした商品開発で、より多くの人に工芸品のよさを知ってもらうことができる。	
構成概念Ⅱ 相互性	人間にとっても、動物にとってもよい未来になるような行動を選択する。（バンブープロジェクト、ERS 等）	老舗の工芸品が、現代のサブカルチャー等とコラボして、商品を開発・販売している。	
構成概念Ⅲ 有限性	循環型社会の実現に向けて、県や町、企業が、環境の美化、再資源化に取り組んでいる。	工芸品は、長持ちするものが多く、その点において、環境にもやさしいという側面を持っている。	
構成概念Ⅳ 公平性	最終処分場の残余年数を考慮して、ごみの削減にみんなで取り組む必要がある。	振興会の人たちは、伝統文化の継承に向けて、若い人たちの魅力を発信している。	和歌山の偉人、濱口梧陵は村民を避難させるために稲むらに火を放ち、多くの命を救ったり、私財を投じて堤防を築き、村の復興に尽力したりした。
構成概念Ⅴ 連携性	循環型社会の実現に向けて、県や町、企業が協力しながら、取り組みを行っている。	伝統行事の成功に向けて、様々な立場の人が協力しながら準備をしている。	自然災害が起きたときは、町役場、警察、消防、自主防災組織など、たくさんの人々が連携・協力して人々の命を守っている。
構成概念Ⅵ 責任性			公助が充実していることで、多くの人の命を救うことができる。

・本学習を通して育てたい ESD の資質・能力

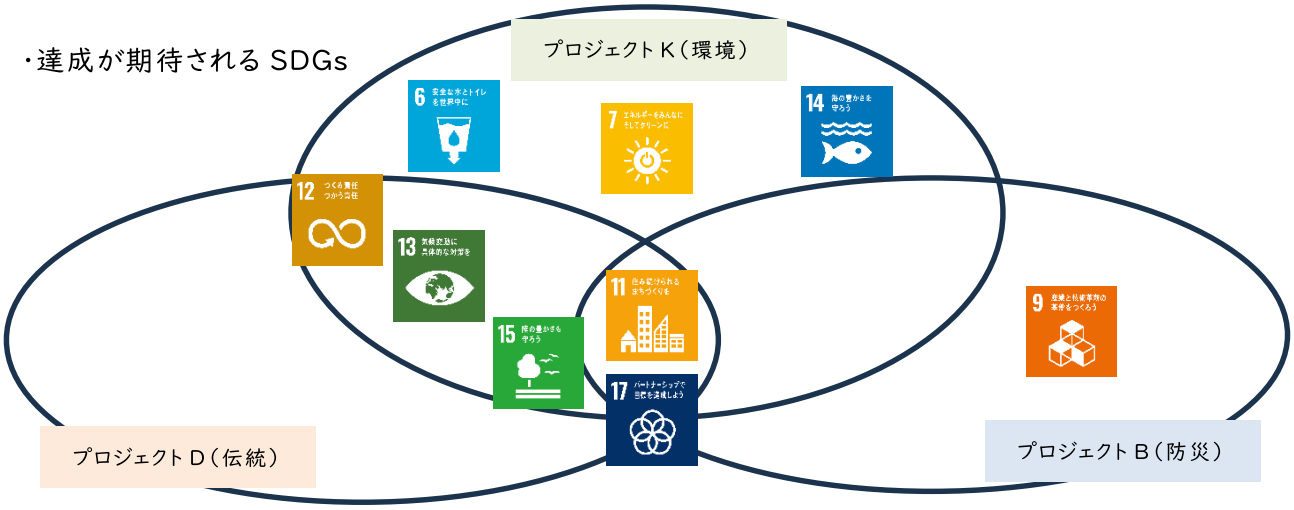
	プロジェクトＫ（環境）	プロジェクトＤ（伝統）	プロジェクトＢ（防災）
クリティカルシンキング	ごみを再資源化という視点で捉え直すことができる。		
未来像を予測して計画を立てる力	最終処分場の残余年数の考慮や、循環型社会の実現など、将来を見据えた上で、ごみの削減や再資源化について考えることができる。	後継者がいないと伝統は続いていかないということに気づき、そのためにどのような取り組みが必要なのかを考えることができる。	被災時における避難生活を具体的にイメージして、それに向けてどのような備えが適当なのか、考えることができる。
システムズシンキング	企業は利益を求めるだけでなく、循環型社会の実現に向けた取り組みを行うなど、社会的責任を果たしていることに気づくことができる。		自然災害が起きたときは、町役場、警察、消防、自主防災組織など、たくさんの人々が連携・協力して人々の命を守っていることに気づくことができる。
コミュニケーション力	ゲストティーチャーに対して、自分が聞きたいことを質問することができる。 自分たちにできることを、仲間と話し合い、合意形成をすることができる。		
他者と協力する態度	自分たちにできることを、仲間と話し合い、協力して進めることができる。		

	プロジェクトＫ（環境）	プロジェクトＤ（伝統）	プロジェクトＢ（防災）
つながりを尊重する態度		魅力ある伝統を、次の世代へとつないでいくことが大切だと気づくことができる。	自分たちの地域の避難訓練に参加するなど、日頃から地域の人とつながっておくことが大切であると、気づくことができる。
進んで参加する態度	≪環境≫≪伝統≫≪防災≫の視点で、自分たちにもできることは何か、自ら進んで考え、行動することができる。		

・本学習で変容を促す ESD の価値観

	プロジェクトＫ（環境）	プロジェクトＤ（伝統）	プロジェクトＢ（防災）
世代間の公正	環境を破壊し、資源を枯渇させる行為は、現代世代が加害者になって未来世代が被害者になるという構造を持っている。	魅力ある伝統を、次の世代へとつないでいくことで、自分たちの代で終わらせないようにする。	中浜にある松林を守っていくことが、将来起こりうる自然災害を減災することにつながる。
世代内の公正		伝統的工芸品のよさや伝統文化の魅力などを、他の人に伝えていく。	小さな子供もお年寄りも、声を掛け合いながら避難することができる。そのために、日頃から地域の人と関わり合っている。
自然環境、生態系の保全を重視する（生物多様性の重視）	最終処分場の残余年数の考慮や、循環型社会の実現など、将来を見据えた上で、ごみの削減や再資源化について考える。	工芸品は、長持ちするものが多く、その点において、環境にもやさしいという側面を持っている。	
人権・文化を尊重する（文化多様性の尊重）		伝統産業や伝統文化を残すために、自分たちは何ができるのかを考える。	
幸福感に敏感になる幸福感を重視する	きれいな町で過ごせることに感謝して、学校生活をおくることができる。	昔から受け継がれてきた伝統を、現代を生きる自分たちも感じ取ることができる。	いつ起こるかわからない自然災害におびえるのではなく、いつ起きても行動できる準備ができており、安心して暮らすことができる。

・達成が期待される SDGs



単元構想図

4年生　白浜みらいプロジェクト（全60時間）

みつめる

10年後、白浜をどんな町にしたいですか？

魚がいっぱいとれる町。

人がたくさん来てくれる町。

安心・安全に暮らせる町。

理想の町にするために、わたしたちができることは何だろう？

プロジェクトK	プロジェクトD	プロジェクトB
『環境』の視点で 私たちができること	『伝統文化・産業』の視点で 私たちができること	『防災』の視点で 私たちができること

県や町の取り組みから、ヒントを得よう。

しらべる

≪社会科での学習≫
・ごみのしょりと活用
（大分市の事例）
・下水のしょりと再利用
（東京都の事例）
・くらしをささえる水
（大阪府の事例）

循環型社会の実現に向けて…

≪社会科での学習≫
・わたしたちの町に伝わるもの
（長崎市の事例）
・伝統的な工業がさかんな地いき
（備前市の事例）
・土地の文化財を生かした地いき
（岡山市の事例）
≪国語科での学習≫
・未来につなぐ工芸品
（奈良墨・南部鉄器）

伝統を守り続けることの難しさ…

≪社会科での学習≫
・自然災害から命を守る
（東京都　：　風水害）
（大阪、兵庫：　阪神・淡路大震災）
（和歌山県　：　津波被害）

公助・共助・自助の大切さ…

和歌山県や白浜町では、どんな取り組みをしているのだろう？

≪社会科での学習≫
・アドベンチャーワールド見学
（堆肥や水など、資源の循環）
・白浜町清掃センター見学
（ごみの処理と活用）
・ごみと環境
・白鳥苑（し尿処理施設）見学
（生活排水の処理）

環境をよくするために、県や町だけでなく、企業も取り組んでいる。

事業系のごみが多い白浜では、観光客にもごみを減らしてもらえるように、呼びかける必要がある。

≪総合的な学習の時間≫
・にぎり墨体験、職人による講話
（奈良県：奈良墨）
・紙漉き体験、職人による講話
（龍神村：山地紙）
・牛乳パックを使った紙作り

「長く使える」ということは、環境にもやさしいということなんだな。

伝統を引き継ぐのって難しいんだな。

≪社会科・総合での学習≫
・植樹した防風林（松林）
・地域のハザードマップの確認
・災害用ドローンの見学
・防災コンサルタントの講話
（防災バッグで必要な備蓄）
・指定避難所の見学
≪特別活動での学習≫
・全町避難訓練
・校内避難訓練

防災バッグに必要なものを知ることで、避難所での生活をイメージできた。

公助も共助も大切だけど、自分で自分のことを助けられる準備は必要だな。

≪環境≫≪伝統≫≪防災≫の視点で、わたしたちにもできることは何だろう？

ふかめる

≪環境≫≪伝統≫≪防災≫の視点で、わたしたちにもできることは何だろう？

ごみを「ごみ」としてではなく、「もう一度使えるもの」として考える。**呼びかける。**

工芸品について、体験してもらう。工芸品のみりょくを**知ってもらう。**

災害に備える大切さを**知ってもらう。**災害対策グッズを作る。

学んだことをだれにどのように伝えよう？

≪国語科での学習≫
・新聞を作ろう
（新聞づくり）

≪国語科での学習≫
・工芸品のみりょくを伝えよう
（リーフレット作り）

≪国語科での学習≫
・もしものときにそなえよう
（Web 記事作り）

ひろげる

家族や親戚、地域の人や観光客など、**より多くの人に**知ってもらいたい。

≪ポータルサイトの開設≫
・事例コレクション
→身の回りにある、環境を守る事例、伝統産業・伝統文化を守る事例、防災事例を集め、共有する。
・学習成果コレクション
→学習成果物を公開し、保護者や地域に発信する。

アドベンからもらった堆肥で、何かお返しをしたい。

≪花づくり≫
・アドベンチャーワールドの堆肥を使って、花づくりを行う。

≪みなしらフェスティバル≫（12月）
・学んだことをまとめて、発表する。
・体験コーナーを作り、遊んでもらう。
・新聞やリーフレットを配布する。

自分たちが住んでいる町をきれいにしたい。

≪みらプロミーティング≫
・白浜みらいプロジェクトで学んだことをもとに、アドベンチャーワールドのスタッフさんと、白浜の未来について、提案し、話し合う。
・作った花の苗をプレゼントする。

≪缶整理≫（総合的な学習の時間）
・地域から回収したアルミ缶やスチール缶を整理し、廃品回収業者に買い取ってもらう。

≪中浜の清掃活動≫（特別活動）
・学校から最寄りの海浜である中浜にて、清掃活動を行う。

体験でもらった工芸品を使って、何かを作りたい。お返しをしたい。

≪お礼のお手紙≫（総合的な学習の時間）
・紙漉き体験で作った山地紙と、にぎり墨体験で作った奈良墨を使って、お家の人にお礼のお手紙を書く。

≪SOS フラッグ作り≫（図画工作科）
・にぎり墨体験で作った奈良墨を使って、被災時に使える SOS フラッグを作る。

手作りの和紙で、日ごろの感謝の気持ちを伝えられてよかった。

8. 単元の指導計画（全20時間　本時18／20）

<table>
<tr><th></th><th>次</th><th>時</th><th>学習活動　〇めあて　☆手立て</th><th>知</th><th>思</th><th>態</th><th>評価規準</th></tr>
<tr><td rowspan="3">みつめる</td><td rowspan="3">一</td><td>1
2</td><td>・10年後、白浜町がどうなっていてほしいかを考え、自分たちが住む町の未来について関心をもつ。
・単元のめあてを確認し、学習計画を立てる。</td><td></td><td></td><td>〇</td><td>・自分たちの住む白浜町の今後について関心をもち、単元全体の学習の見通しをもって、進んで学習に取り組もうとしている。（態）</td></tr>
<tr><td colspan="7">学習課題①
県や町の取り組みから、ヒントを得よう。</td></tr>
<tr><td>社会科</td><td colspan="6">【自然災害から人々を守る活動】12時間
≪内容の取扱い≫
「自然災害から命を守る」→風水害について

［選択］地震による災害
①　阪神・淡路大震災
〇　地震が起きた後、人々のくらしを守るために、
どのような取り組みがあったのだろう。
②　復旧から復興へ
③　地震に備えて
［選択］津波による災害
④　津波のこわさを知る
〇　津波から人々の命を守るために、
どのような工夫や努力があるのだろう。
⑤　稲むらの火、濱口梧陵について
⑥　県の取り組み
〇　津波に備えて、わたしたちにはどんなことができるのだろう。

［選択］火山による災害
［選択］雪による災害

≪社会科でめざすこと≫
・地域の関係機関や人々は、自然災害に対し、様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される災害に対し、様々な備えをしていることを理解すること。⇒ア知（ア）
・過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などに着目して、災害から人々を守る活動をとらえ、その働きを考え、表現すること。⇒イ思（ア）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">しらべる</td><td rowspan="2">二</td><td colspan="7">学習課題②
和歌山県や白浜町では、どんな取り組みをしているのだろう。</td></tr>
<tr><td>3
4
5
6
7</td><td>〇白浜町では、どんな災害が起こるのだろう。
・白浜町で起こりうる災害の種類を確かめる。
・自分たちの町にある防災標識を確かめる。
・学校や家、よく遊びに行く場所で地震が起こったら、どんな危険があるのか確かめる。</td><td>〇</td><td>〇</td><td></td><td>・自分たちが住んでいる地域では、地震・津波等の災害に対して特に警戒が必要であり、地域のいたるところに災害種別避難誘導標識システムを用いた「防災標識」が多く設置されていることを知ることができる。（知）
・またそれらを簡易的な防災マップにまとめることできる。（思）</td></tr>
</table>

	次	時	学習活動 〇めあて ☆手立て	知	思	態	評価規準
		8 9 10 11 12	〇白浜町では、どんな対策をしているのだろう。 ・特別養護老人ホーム「百々千園」に見学に行き、白浜町役場防災課や、指定避難所での取り組みを知る。	〇			・白浜町役場防災課が取り組んでいることや、中区の避難所に指定されている百々千園で備蓄等の準備がなされていることなどを知ることができる。（知）
		13 14 15 16	〇自分たちの地域では、どんな助け合いがあるのだろう。 ・株式会社クオリティソフトに見学に行き、災害対応アナウンサードローンを見る。	〇			・被災者救援・救助活動の支援として、クオリティソフトの災害対応アナウンサードローンが活用されることや、クオリティソフトと中区が連携して、災害避難場所の提供がなされていることなどを知る。（知）
ふかめる	三	**学習課題③ わたしたちにできることは何だろう。**					
		17 18 19	〇自分でどんな備えが必要なのだろう。 ・防災コンサルタントが考案した防災バッグをもとに、災害時に必要な防災グッズについて考える。		〇		・防災バッグに必要な中身を考える活動を通して、被災時における生活を具体的にイメージできる。（思）
ひろげる	四	**学習課題④「地域の防災アドバイザー」 学んだことをだれにどのように伝えよう？**					
		国語科	**【もしものときにそなえよう】10時間** **≪学習の流れ≫** ① 学習の見通しをもつ ② テーマを決めて調べ、分かったことなどをカードに書き出す ③ 調べたことを分類、整理する ④ 作例を読んで、文章の組み立て方を確認する ⑤ 文章の組み立てを考える ⑥ 自分の考えをまとめた文章を書く ⑦ 書いた文章を読み返し、推敲する ⑧ 文章を読み合い、感想を伝え合う ⑨ 単元の学習を振り返る **≪言語意識≫** ① 相手意識：家族や地域の人 ② 目的意識：自然災害の特徴や、日々の備えのあり方や大切さなどを知ってもらう ③ 場・状況意識：紙面、ポスター形式⇒ポータルサイトへ ④ 方法意識：調べた内容を自分の主張を支える理由や具体例として組み込む ⑤ 評価意識：文章の組み立て方や引用の方法等、書き方のモデルを示す **≪国語科でめざすこと≫** ・考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。⇒知（2）ア ・自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。⇒思B（1）ウ				
		図工科	**【SOS フラッグを作ろう】2時間** ・にぎり墨体験で作った奈良墨を使って、被災時に使える SOS フラッグを作る。				

	次	時	学習活動 〇めあて ☆手立て	知	思	態	評価規準
		20	〇活動を振り返り、感じたことや考えたことを伝え合おう。 ・振り返りカードに書く。 ・伝え合う。 ☆第1時と同様の項目について考えさせることで、活動から得られた学習の広がりや深まりについて気づかせる。	〇	〇		・これまで生活してきた学校区には、地震・津波などの災害の危険があることを知り、防災・減災について必要な事柄を理解している。(知) ・災害に備えることについて、町探検で気づいたことや教えてもらったこと、体験したことを、自分らしい方法で表現している。(思)

9. 本時の目標

防災バッグに必要な中身を、被災時における具体的場面を想像して、考えることができる。

10. 本時の展開(18/20)

	学習活動 T 指導者の発問 C 予想される児童の反応	・留意点 〇配慮を要する児童への支援 ★評価(評価の方法)
つかむ【3分】	1. これまでの学習を振り返る。 2. めあてを確認する。 **めあて　防災バッグの中身を考えよう。**	・災害の種類、避難訓練や避難経験、公助・共助・自助などの用語の確認
ふかめる【35分】	3. 前時で選んだグッズと理由を交流する。 C 水(水がないと生きていけないから) C クッキー(おなかがすくから) 4. 防災バッグに入れたいグッズ9選を、グループで話し合い、厳選する。 C 災害時には、断水して水がしばらく使えなくなるかもしれないので、水が必要です。 C トイレのことを考えていなかったな。 5. お互いのグループで作った防災グッズ9選を比較し、質問しあう。 T となりのチームに「なぜそのアイテムを選んだのか」聞いてみたいことはありますか。 C1 なぜ「給水バッグ」を選びましたか? C2 水が支給されるようになったときに、水を入れる大きな容器が必要かなと思いました。 6. 1回目と2回目で作成した防災グッズ9選を	・前時の活動 防災バッグの中から、自分が必要だと思うグッズを9つ選び、そのグッズを選んだ理由を考える。 ・なぜそのグッズを防災バッグに入れたいのか、選んだ理由をもとに、話し合わせる。 ・文例を示す。 災害時には(困った状況)になるので、〇〇が必要です。 ・話し合いの状況に応じて、イベントカード(※1)をグループに渡し、防災グッズ9選がこのままでよいか再検討させる。 〇被災時における具体的場面を想像できていない児童には、「災害時にはどういった困った状況になるのか」を考えさせるようにする。(※2) ★被災時における生活を具体的にイメージして、グッズを選んだ理由を話し合っている。 ・1回目の状態を複製して残しておき、視覚

	比較し、変更した箇所とその理由を発表する。 C 夜が寒くて寝られないという問題があったので、ブランケットを追加しました。 C 断水していてトイレが使えないという問題があったので、凝固剤を追加しました。 5. カードが色分けされている理由について考える。 T なぜこのような色分けをしていると思いますか。 C 赤色は服が関係していそうです。 C 青色は食べ物のグループだと思います。 C 黄色はお風呂とかトイレとか？	的に比較できるようにしておく。 ・児童が選んだグッズとその理由を取り上げつつ、カテゴリーについてまとめていく。 ≪カテゴリー≫ 『衣』： 赤色 『食』： 青色 『住』： 黄色 『情報』： 紫色 『その他』： 灰色
	まとめ　防災バッグの中身は、「衣」「食」「住」「情報」で考える。	
まとめる【7分】	6. 学習のふりかえりをする。 T 今日初めて知ったことや考えたことを振り返りましょう。 C トイレに困るのが意外でした。 C 家でも防災バッグの準備をしようと思いました。 C 食べ物だけじゃなくて、食べるための道具も必要なのだと知りました。 7.次時の見通しをもつ。	・防災コンサルタント（GT）より講評をもらう。 ・次時では、防災コンサルタントが考えた防災バッグについて、学習していくことを知らせる。

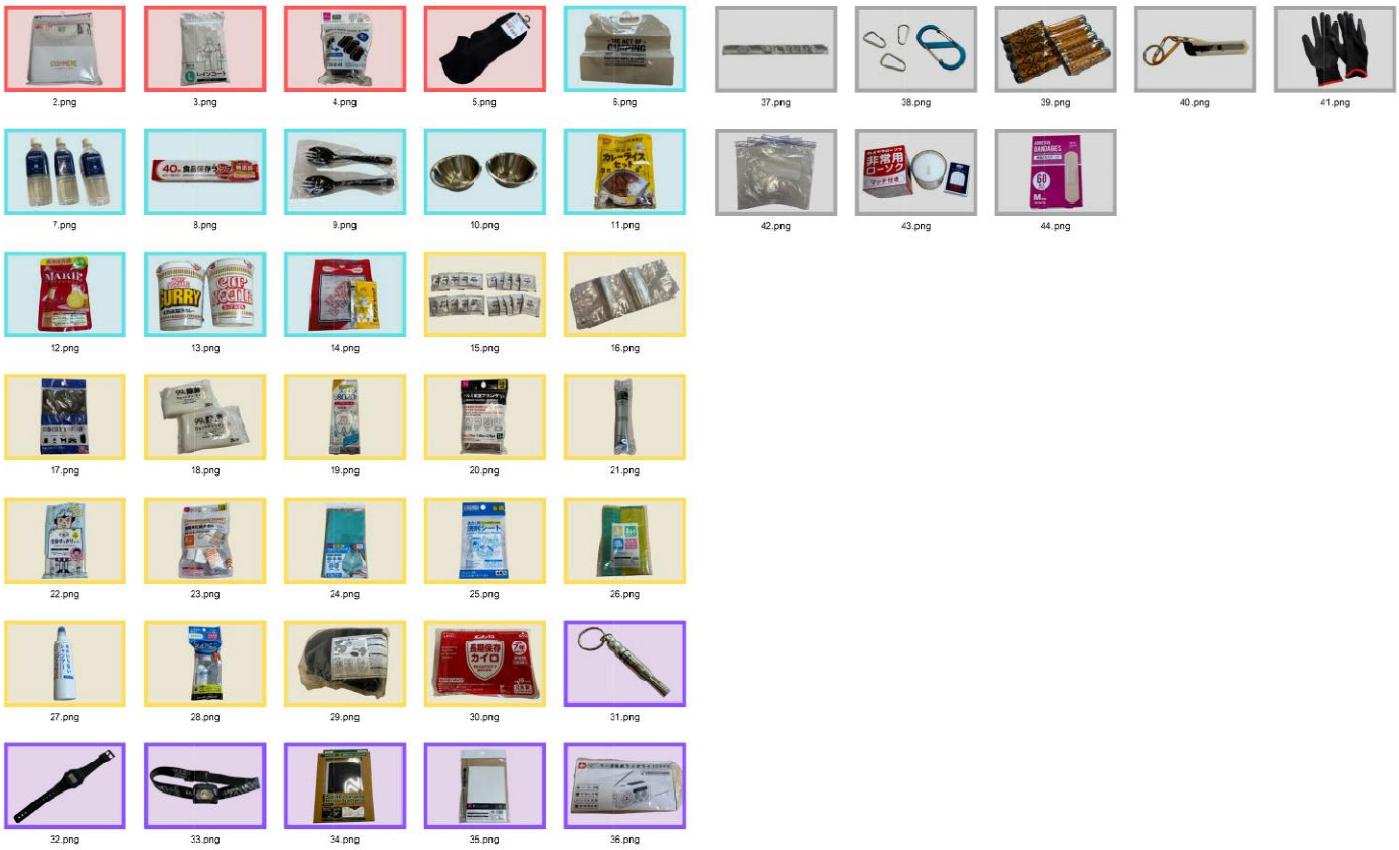
※1 イベントカード例（避難所にいる人たちからこんな声が聞こえてきます）

「衣」の不足	・夜が寒くて寝られません。 ・服が汚れてしまって、気持ちが悪いです。
「食」の不足	・道路がこわれていて、救援物資の食べ物がなかなか届きません。 ・ごはんが支給されたけど、「お皿やおはしは各自で用意してください」と言われました。
「住」の不足	・トイレに行きたいけど、断水しているので、使えない。 ・しばらく歯みがきをしていないから口が気持ち悪い。 ・汚れた手でいろいろなところをさわりたくないな…。 ・お風呂に入りたいです。
「情報」の不足	・スマホのバッテリーがないから、今どこで何が起きているか分からず、不安です。 ・いつ帰れるのか、分からないので不安です。

※2 災害時における具体的場面例（防災グッズ別）

	防災グッズ	具体的場面例（被災時において困る状況等）
衣	ヒートテック等の衣類	・着るものがないと不衛生 ・暖房等が使えない可能性があるため、寒い
	レインコート	・雨天時に出歩きにくい ・傘だと手がふさがり、悪路を歩くのに危険を伴う
	靴下	・ヒートテックと同様 ・足元に危険なものが落ちている可能性があるため、ケガにつながる
食	ウォーターバッグ	・水道管が破損したり、電力不足でポンプが停止したりして断水する可能性がある ・給水所は混雑することから、一度になるべく多く運べた方が良い
	長期保存水	・上記同様 ・給水車が被災地まで届くまでの期間、最低限の生活を維持するために水の確保が必要
	ラップ	・食品を一時的に保存しておく ・使用したお皿は、断水等により、洗うことができない可能性がある（お皿にラップを巻いて食べる）
	カトラリー（スプーン、フォーク）	・手で食べることは不衛生 ・炊き出しなどの配給時に役立つ
	アルミ皿	・上記同様
	非常食等	・配給支援が被災地まで届くまでの期間、最低限の生活を維持するために食料の確保が必要
	ヒートパック	・停電の可能性もあるし、電子レンジ等は使えない
住	凝固剤、袋	・水道管が破損したり、電力不足でポンプが停止したりして断水する可能性がある→トイレが使えない可能性がある
	ウェットティッシュ	・きれいな環境に身を置けるとは限らない ・水で洗うことも難しい場合がある
	アルコールジェル	
	マウスウォッシュ	・断水等の関係で、歯みがきをすることができない場合がある
	アルミ保温ブランケット	・暖房等が使えない可能性があるため、寒い
	ウェットボディタオル	・お風呂に入ったり、シャワーを浴びたりすることができるとは限らない ・入れたとしても、設備が整うまでに期間を要する
	タオル	
	水のいらないシャンプー	
	ウォッシュバッグ 洗濯シート	・断水等の関係で、洗濯をすることができない場合がある
	レジャーシート	・細かいガラスの破片が床の上に散乱している恐れがあるため注意が必要
	エアー枕 アイマスク 耳栓	・避難所生活では、隣人同士の距離感が近くなり、完全なプライベートが確保されない可能性がある
	スリッパ	・足元に危険なものが落ちている可能性があるため、ケガにつながる
情報	笛	・声で助けを呼べるとは限らない ・また、その状態を維持するのは体力的に難しい
	腕時計	・時間感覚を失うと、不安感につながる ・スマホが常時使えるとは限らない

	防災グッズ	具体的場面例（被災時において困る状況等）
情報	ヘッドライト	・停電の恐れがあるし、足元に危険なものが落ちている可能性がある
	ソーラー充電モバイルバッテリー	・停電の恐れがあるし、通電していても、コンセントが使えるかは分からない
	防災ノート	・災害掲示板を活用したり、人に何かを伝達したりする際、書くものに困る場合がある
	ラジオ	・停電によりスマホの充電が切れたり、通信網が遮断されたりすると、情報が全く得られなくなる ・SNS 上のデマ情報に惑わされる可能性がある ・避難場所の状況や、復旧作業に必要な情報などを把握できず、適切な行動がとれなくなる
その他	反射テープ	・夜間での交通事故につながる
	カラビナ	・いざという時に必要なものを素早く取り出したり、避難時に持ち運ぶ荷物をまとめたり、一時的な物干しや固定に使える
	乾電池	・電力を必要とする機器に使用できる
	カッター	・段ボールを開封する際や紐を切る際に役立つ
	作業用手袋	・様々な作業場面で、汚れやケガから手を守る
	ジップロック	・食料の保存、簡易トイレの代用、防災グッズの整理整頓など、様々な用途で使える
	非常用ローソク	・停電の恐れがある
	絆創膏	・ケガの恐れがある



総合的な学習の時間を核とした教科横断的な授業づくり
（カリキュラムマネジメント案）

令和７年度　第４学年

総合的な学習の時間の年間目標
〇白浜町の未来について、自分たちができることを考える。

	総合的な学習の時間での活動	他教科との関連
１学期	≪白浜みらいプロジェクト≫ ・自分たちが大人になったときに、どんな白浜町であってほしいか、考えを出し合う。 「プロジェクトＫ（環境編）」 ・白浜町の清掃センターを見学し、ごみの処理について学ぶ。 ・し尿処理施設「白鳥苑」を見学し、下水の処理について学ぶ。 ・アドベンチャーワールドの水循環施設を見学したり、アップサイクル商品に関する話を聞いたりして、資源の再循環について学ぶ。 ・学んだ内容を新聞にまとめる。 ・環境の視点で、自分たちが行動できることを考える。	・わたしたちの県のようす（社） ・ごみのしょりと活用（社） ・くらしをささえる水（社） ・図書館の達人になろう（国・司書連携） ・聞き取りメモの工夫（国） ・折れ線グラフと表（算） ・新聞を作ろう（国） ・要約するとき（国） ・缶のリサイクル（特活） ・いのちをつなぐ岬（道） ・このままにしていたら（道） ・ごみや資源について考えよう（道）
２学期	「プロジェクトＤ（伝統産業・文化編）」 ・奈良墨の墨作り体験を行う。 ・山地紙の紙漉き体験を行う。 ・鹿嶋神社（中地区）の例大祭について調べる。 ・八坂神社（栄地区）の例大祭について調べる。 ・学んだ内容を Web サイトにまとめる。 ・伝統産業・文化伝承の視点で、自分たちが行動できることを考える。 「プロジェクトＢ（防災編）」 ・中地区避難ビル、タワーを見学する。 ・災害対応アナウンサードローンの活用など、株式会社クオリティソフトが行っている防災に関する事業について学習する。 ≪白浜みらいプロジェクト≫ ・中間報告会を行う（フェスティバル）	・パンフレットを読もう（国） ・クラスみんなで決めるには（国） ・未来につなぐ工芸品(国) ・工芸品のみりょくを伝えよう（国） ・伝統的な工業がさかんな地いき（社） ・地域の伝統や文化と、先人のはたらき（社） ・祭りだいこ（道） ・地震津波想定避難訓練、起震車体験、集団下校訓練等（特活） ・自然災害から人々を守る活動（社）

3学期	「プロジェクトＢ（防災編）」続き ・きいちゃんの災害避難ゲームを授業参観で行い、お家の人と防災について話し合う。 ・防災の視点で、自分たちの命を守るためにできることを考える。 ≪白浜みらいプロジェクト≫ ・最終報告会を行い、アドベンチャーワールドのスタッフと白浜町の今後の未来について、話し合う。 「二分の一大人宣言」 ・年間を通して学んだことを振り返り、１０年後の自分たちの未来に向けて取り組んでいきたいことを宣言する。 ・自分で漉いた和紙を使って、お家の人に感謝の手紙を書く。	・自然災害から人々を守る活動。（社） ・もしものときにそなえよう。（国） ・わたしの大切なもの（道） ・お礼の気持ちを伝えよう（国）

教科横断型学習「白浜みらいプロジェクト」

における教科研究と実践後のふり返りについて

白浜町立南白浜小学校　大浦　侑唄

4 Grade

Minashira 4th Grade Presents

白浜 みらい プロジェクト

01

アドベンチャーワールドの見学

アドベンチャーワールドでは、自然と資源が循環する廃棄物ゼロパークを目指しており、環境の視点で様々な取り組みを行っている。アドベンチャーワールドでの取り組みを見学させてもらうことで、地域や自治体だけでなく企業も含めた町全体で、持続可能な社会の実現に向けて取り組んでいることを学習した。

白浜町清掃センターの見学

白浜町清掃センターで、施設が実際に稼働している様子を見せてもらったり、働く方々の苦労や願いを聞かせてもらったりした。白浜町では、家庭系のごみよりも事業系のごみが多いことに気づき、観光業でにぎわう町特有の割合であることを学習した。

02

03

ごみと環境フェアへの参加

白浜町立体育館で開かれた「ごみと環境フェア」では、様々な団体のブースが展示されている中、清掃センターや環境省、関西電力やアドベンチャーワールドの方など、いろいろな方から環境に関するお話を聞かせてもらった。白鳥苑では、各所から集められたし尿がどのように処理されているのか、実際に稼働している機械を順に巡りながら、見学させてもらった。

4 Grade

Minashira 4th Grade Presents

白浜 みらいプロジェクト

04

国語科「新聞を作ろう」

アドベンチャーワールド、白浜町清掃センター、白鳥苑の３つの社会見学で学んだことを新聞記事にした。白浜町のごみの量の内訳では、算数科で学んだ表・グラフ作りを活用して、表やグラフにまとめ、そこから何がわかるのかを考察した。

05

堆肥を使った花づくり

パーク内で出た食べ残しや動物の糞などから作った堆肥を、アドベンチャーワールドからいただいた。いただいた堆肥をどのように活用するのかを話し合い、花づくりをすることにした。作ったパンジーの苗は、アドベンチャーワールドへ持っていき、パーク内に置いてもらった。

06

山路紙 紙漉き体験

田辺市龍神山路紙保存伝承施設の奥野誠さんと奥野佳世さんが来校され、紙漉き体験学習をしてもらった。伝統工芸の一つである紙漉きの技術が１５００年以上も現代に受け継がれてきていること、私たちの暮らしを支えている紙の作られ方や材料に目をつけたとき、自然や動植物の環境にも結び付いていること、そして紙漉きを実際に五感で体験したことで、おもしろさや大変さ、和紙の風合いなど、様々なことを感じることができた。

4 Grade

Minashira 4th Grade Presents

白浜 みらいプロジェクト

07

奈良墨 にぎり墨体験

奈良県奈良市の「錦光園」から、長野睦さんが来校され、奈良墨を使ったにぎり墨体験学習をしてもらった。墨の歴史は大変古く、昔から人々は伝える手段として墨を使用してきたことや、またその書物などが１０００年以上経った今も残り続けていることなど、奈良墨が「未来につなぐ工芸品」であることを学びました。

国語科「工芸品のみりょくを伝えよう」

「和歌山の工芸品のよさを伝えよう」というミッションのもと、「和歌山観光大使」として発足したプロジェクトD（伝統）。紙漉き体験やにぎり墨体験をして、工芸品の一つである山路紙や奈良墨に実際に触れ、国語科の説明文「未来につなぐ工芸品」を通して、工芸品のよさを伝える練習を重ね、最後には社会科で調べてきた和歌山県の工芸品の魅力をサイトに、体験学習で学んだことを新聞にまとめていった。

08

09

たいじさんオンライン

岡山県の防災コンサルタントの堀脇たいじさんをオンラインで招聘し、防災学習を行った。たいじさんがオリジナルで作成した防災バックを授業で使わせてもらい、防災バックに必要な防災グッズについて考えた。

１日目はこれがあった方がいいなと思うグッズとその理由について、自分たちで考え、話し合った。その話し合った内容をもとに２日目はたいじさんより、各グッズがなぜ必要なのか、災害現場ではどんなことが起こりうるのかなど、防災のプロの目線で解説してもらった。専門家からの話を聞けて、子どもたちも防災の意識が高まったようで、お家でも話したいと振り返っている児童もいた。

4 Grade

Minashira 4th Grade Presents

白浜 みらいプロジェクト

10

校区探検→防災マップ

自分たちの町にある防災標識や被災時に危険な箇所などを知るために、中区や栄区に町探検に行った。自分たちが普段通学路として使っている道や、避難時に使う経路にも、避難に役立つ情報があったり、一方で危険がひそんでいたりすることが分かった。調べた内容は、web上の防災マップにまとめ、ポータルサイトにも掲載することで、保護者にも見てもらった。

クオリティソフト見学

被災者救援・救助活動の支援として、クオリティソフトの災害対応アナウンサードローンが活用されていることや、クオリティソフトと中区が連携して、災害避難場所の提供がなされていることなどを知る目的で、見学に行った。 上空を飛んで下の様子をカメラで確認できるだけでなく、遠隔で操作できることやある程度の物資を運搬できること、ドローンに付属しているスピーカーからアナウンスができることなどを知ることができた。また、災害対応ドローンを会社で取り入れようと思ったきっかけや、避難場所を提供してくれる理由なども教えてもらい、もしものときにために、わたしたちの町にある企業も、備えてくれていることが分かった。

11

12

ポータルサイトの開設

学級での学びを保護者や地域と共有する目的で、ポータルサイトを開設した。事例コレクションでは、身の回りにある、環境を守る事例、伝統産業・伝統文化を守る事例、防災事例などを、日常の中で見つけた時に自由に投稿してもらうようにした。学習成果コレクションでは、児童が作った学習成果物を紹介し、更新した際には学級通信等でお知らせした。

4 Grade

Minashira 4th Grade Presents

白浜 みらいプロジェクト

13

パークスタッフと座談会

これまで学習してきた成果を発表しに、アドベンチャーワールドへ行ってきた。スタッフが普段ミーティング等で使用している会議室で、３名のスタッフさんに学習成果をスライドで発表した。対応してくれたスタッフは、６月の社会見学でもお世話になった方々だったので、その時に学んだ内容も伝えることができてよかったと、子どもたちもふり返っていた。その後、発表の内容を踏まえた肯定的な評価や今後の学習につながるアドバイスも、スタッフの方々からいただくことができた。

国語科
「もしものときにそなえよう」

災害対策を題材として、社会科や総合的な学習の時間で学んできた学習内容を基にして、意見文を書いた。調べた内容をつなぎ合わせて報告するのではなく、調べた内容を自分の主張を支える理由や具体例として組み込むようにした。書いた意見文は、Web記事として、ポータルサイトにも掲載した。

14

15

国語科
「お礼の気持ちを伝えよう」

１０才まで育ててきてもらったお家の人に向けて、日頃の感謝の気持ちを伝える手紙を書いた。自分のにぎり墨を磨って墨液を作り、自分で漉いた山路紙に書くようにした。

≪育てたい ESD の資質・能力≫

未来を予測して計画を立てる力…最終処分場の残余年数の考慮や、循環型社会の実現など、将来を見据えた上で、ごみの削減や再資源化について考えることができる。

Minashiro 4th Grade Presents 白浜みらいプロジェクト

PROJECT K NEWSLETTER VOL.2

みなしら４年 ニュースレター

白浜をきれいに！白浜町清掃センターの取り組みを紹介！

施設に秘められた工夫とは…

（柴田・出口）

エアカーテン

エアカーテンでは、プラットホームからのにおいを、空気の壁で外に出ないようにしています。なぜ空気の壁かというと、中の様子が見えて、安全だからです。外にもにおいが、入ってこないように、空気の壁になっているのです。

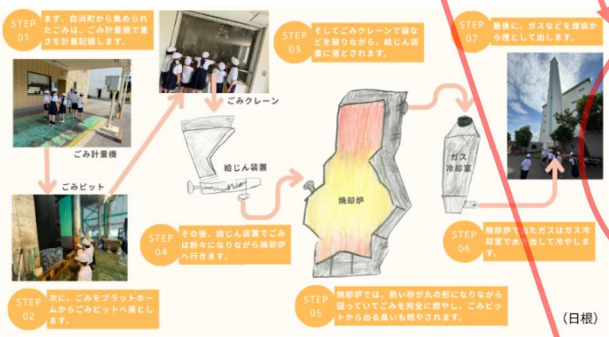
中央制御室

中央制御室は、焼却炉の管理をしたり、ゴミクレーンの運転をしていたりします。あとは、焼却炉の運転管理をしていたり、火の色を確認したりしています。また、灰を固めるのを監視して、煙突から出る煙の色を確認しています。

煙突

煙突の中には、煙突が、2本あります。その理由は、焼却炉が２こあるからです。想像以上に大きくて、その煙突の長さは、６０mでした。煙突の中には、階段があるので、上まで登れます。煙突につながっているのは、誘引送風機です。

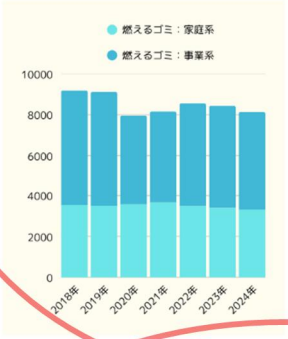
ごみが処理される流れ



（日根）

白浜町のごみの量を減らすには…

わたしたちは、白浜町で出されている燃えるごみの量を、家庭別と事業別に分けてグラフにまとめてみました。すると、**事業系のごみが毎年多い**ことが分かりました。白浜町は、観光でにぎわう町なので、おそらく観光地やホテルなどで出るごみが多くなっていると考えられます。そのため、わたしたちだけでなく、**観光客の人たちにもごみを減らしてもらえるように、呼びかけをしていく必要がある**と感じました。（濱口・山本）



年度	燃えるゴミ 家庭系(t)	燃えるゴミ 事業系(t)
2018年	3538	5645
2019年	3502	5612
2020年	3576	4376
2020年	3666	4490
2020年	3498	5050
2023年	3404	5031
2024年	3309	4822

みんなで取り組もう！　ごみを減らすための「4R」

この学習を通して、ごみを減らす活動だけではなく、再利用したり、不要なものをもらわないようにしたり、ものを繰り返し使ったりすることも、環境を良くする上で大切だと思いました。

皆さんも、きれいな町にするためにこの**4つのRを意識して、環境に良い生活を**おくっていきましょう。（萬歳）

Minashiro 4th Grade Presents 白浜みらいプロジェクト

PROJECT K NEWSLETTER VOL.1

みなしら４年 ニュースレター

循環型パーク、アドベンチャーワールドの取り組みを紹介！

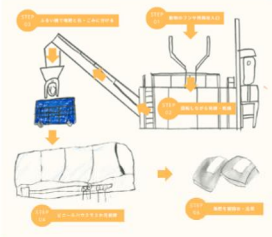
堆肥を作って、廃棄物ゼロを目指す！

アドベンチャーワールドでは、パークでで食べ残しや動物のフンなどをかきまぜ、堆肥にしているそうです。ゾウやキリンなど、小食動物のフンをパーク堆肥場で発酵させ、年間１２０トンの堆肥をつくり、近くの農家やゲストに販売しているそうです。また、この堆肥を使ってパーク内で野菜を栽培し、社員食堂で、新鮮な野菜を提供しているそうです。

堆肥を作るには、次のような手順で行われます。

①動物のフンや食べ残しをホッパーにいれて、
②回転しながら、発酵、乾燥させて、
③ふるい機で堆肥と石・ゴミに分ける。
④ビニールハウスで２か月間発酵させ、
⑤堆肥を袋に詰めて出荷します。

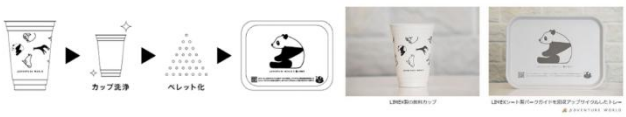
ぼくは、動物のフンや人が食べ残したものを機械で混ぜて堆肥にするのは、すごい発想だなと思いました。（出口）



アップサイクルで、環境に良い商品の選択を！

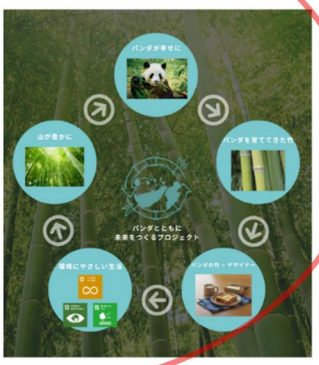
アドベンチャーワールドでは、自然に良いものを使い、紙やプラスチックを使わないように取り組んでいるそうです。ペットボトルを使ったリサイクル商品や竹を使った商品などのオリジナルグッズを作ったり、ペットボトルを100%リサイクルした「サスティナブルバッグ」の販売を行ったり、石灰石を使った「LIMEX」をパークガイドに使ったりもしているそうです。

ぼくは、この学習を通して、リサイクルをすると、自然や自分たちの暮らしが良くなって、どちらにも良い環境が作れると思いました。（日根）



竹の循環　～パンダバンブープロジェクト～

パンダが残した竹をきれいにして、再利用し、竹で出来たペンなど、本来捨てるようなものを、価値のあるものに変えていきます。そしてみんなが環境にいい生活をして、山が豊かになるように、増えすぎる竹を山から切り、その切った竹がパンダのえさになり、パンダが食べて、そして、竹の循環ができます。それが、アドベンチャーワールドが取り組んでいるパンダバンブープロジェクトの一つです。また、最近では、竹を使ってアオリイカの産卵床を白浜の海底に設置して、産卵に成功しているそうです。



パンダバンブープロジェクトは、竹という資源を有効活用することで、ごみを減らすことができるし、ぼくたちの日常生活も豊かになるし、人や動物、社会にとって良い取り組みをアドベンチャーワールドはしていると思いました。（柴田・萬歳）

水の循環　～使った水をもう一度～

アドベンチャーワールドでは、イルカやペンギンなど、海でくらす動物の飼育に使われる水は、近くの海からとってきて、使った水はそのまま流すのではなく、きれいにしてから流すようにしています。イルカショーの水は、お風呂の浴槽約120万杯だそうです。浴槽120万杯と考えると、びっくりする量ですね。

また、パークのレストランやトイレで使った水などは、生活排水処理場で綺麗にして、再利用しているそうです。そこで綺麗になった水は、「二次水」といって、動物小屋の掃除に使っているそうです。

このように、アドベンチャーワールドでは、水の循環を行っています。使った水をきれいにできる施設があるのがすごいし、使った水をさらにもう一度使うのは、地球に優しい取り組みだなと思いました。（濱口・山本）

≪育てたい ESD の資質・能力≫
つながりを尊重する態度…魅力ある伝統を、次の世代へとつないでいくことが大切だと気づくことができる。

体験学習のふりかえりより

- ぼくが一番びっくりしたことは、日本で墨を作るお店が全部で９けんしかないということです。三重県で１店舗、奈良県で８店舗だそうです。だけど昔は４０店舗もあると聞いたときはおどろきました。
- 心にのこったことは、奈良墨を作るための材料が、和歌山にもあるということです。奈良墨の材料は奈良にしかないと思っていたので、びっくりしました。
- 墨は、今から１４００年前に中国でできていたことを知りました。自分の手で奈良墨を作りました。力をすごくいれないといけなかったけど、ちゃんとできてよかったです。自分の手でにぎった墨を出来上がりが楽しみです。
- **錦光園は、７代も続いていて、長野家の墨作りの家系は江戸時代から続いていて、１００年以上も奈良墨を作っているそうです。とても歴史が続いていて、残していくためには、いろいろな人に知ってもらうことが大事だなと思いました。**
- 奈良墨を作る人が１０人しかいなくてびっくりしました。もうちょっと作れる人がいると思いました。また、奈良県以外の墨のお店が１けんしかないことにびっくりしました。**今回のことをみんなにも知らせようと思います。**
- こねる作業が最初はむずかしかったけど、やってみると楽しくて、うまくはできなかったけど、大体きれいにできたのでうれしかったです。自分の手でにぎった墨の出来上がりが楽しみです。

- 奥野さんたちは、これを毎日やっていて、すごいなと思いました。ぼくはまだまだ山路紙を続けてほしいなと思いました。**山路紙が続いていくためには、人が必要だから、ほかの県の人たちにも山路紙を知ってほしいなと思いました。ほかの県の人たちにせんでんするために、自分たちで資料をまとめて新聞やポスターを作って、ほかの県の人たちに見てもらいたいなと思いました。**
- 紙漉き体験をしてみて、紙を作るのに４時間ほどかかることが分かりました。ぼくは１時間くらいあれば作れるのかなと思っていましたが、４時間もかかったのは驚きでした。
- 山路紙は、昔一度なくなったけど、もう一度奥野誠さんと佳世さんが復活させて、昔の作り方とほとんど変わらない作り方で作っているそうです。**ほとんど変わらない作り方なのに、奥野さんの独学ということを知って、山路紙という伝統が、とても大切にされていると思えました。**

≪育てたい ESD の資質・能力≫
未来を予測して計画を立てる力…被災時における避難生活を具体的にイメージして、それに向けてどのような備えが適当なのか、考えることができる。

防災学習のふりかえりより

- 消防士になろうと思ったきっかけにおどろきました。近くの家で火事が起きていたら、ぼくはこわくて近づけません。すごい勇気だと思いました。
- 防災バッグを自分で作ることができるのがすごいと思いました。なぜなら、西日本豪雨などの災害現場に行って得た知識を防災バッグにつめこんでいるのがすごいと思ったからです。
- たいじさんは、自助、共助、公助の順に大事だと話していました。「自分の命は自分で守る」と言っていたので、わたしも「自助が一番大事」なんだなと思いました。
- 防災バッグへの入れ方や大事なもの、災害が起きた時に役立つものを家族で相談して決めて、防災バッグに入れると良いと分かりました。家族と防災についての備えを話し合おうと思いました。
- 防災バッグの中に、スプーンやお皿、サランラップなど、「これいる？」となったものも、たいじさんの説明で納得できたので、すごいなと思いました。
- たいじさんのお話で、防災バッグのことについてたくさん知ることができました。防災バッグの中身も、種類ごとでふくろに分けると見やすくて、使いやすくなることが分かりました。

≪働かせる ESD の視点（見方・考え方）≫
構成概念Ⅴ連携性…自然災害が起きたときは、町役場、警察、消防、自主防災組織など、たくさんの人々が連携・協力して人々の命を守っている。

- ドローンは初めて見たから、すごく大きいなと思いました。悪天候やー１０℃でも飛べるのがすごいと思いました。
- ドローンの耐久性が意外に強いことが、印象に残りました。飛行時間も、災害用のドローンは４０分飛行するのに対し、ラジコンは４０分も飛べないので、災害用に便利で、物を運ぶのにも良いと思いました。
- ドローンが入って良くなったことを聞くと、上からちゃんと見れるということだと聞きました。それを聞いてドローンはすごいなと思いました。
- 自分の思っていた２０倍くらいドローンが大きくて驚きました。そんな大きなドローンで、３０kg の荷物を持ち上げると知って、さらに驚きました。自分の体重が３３kg なので、あと３kg やせれば自分のことを持ち上げられるなと思いました。そういう荷物を被災地に届けられると思うとすごいなと思いました。
- ドローンがすごく大きいのに、１０kg と意外と軽くてびっくりしました。ドローンを使って、災害の状況が知れたり、物資を届けられたりするのが、すごいなと思いました。